

V-002

術前化学放射線療法後完全切除できた右
Pancoast 肺癌の 1 例

自治医科大学外科学講座 呼吸器外科部門

手塚 憲志, 遠藤 俊輔, 齊藤 紀子, 遠藤 哲哉, 手塚 康裕,
金井 義彦, 大谷 真一, 長谷川 剛, 佐藤 幸夫, 塚田 博,
蘇原 泰則

【はじめに】右 Pancoast 肺癌で術前化学放射線療法後、完全切除施行し得た 1 例を経験した。【症例】57 歳, 男性【現病歴】右上肢挙上時右胸痛および発熱認め, 近医受診。抗生剤治療にて改善を認めず, 肺癌疑いにて当院内科紹介。TBLB 施行, 扁平上皮癌の診断を得た。胸部 CT にて右肺尖に広範な胸壁浸潤が疑われ, また縦隔リンパ節腫脹もあり, 術前化学放射線療法施行した (31% の縮小率, PR)。c-T3N2M0 stageIIIA の診断にて手術を施行した。【手術】左側臥位, 右第 5 肋間高位後側方開胸。右上葉は萎縮し, 肺尖から第 4 肋間背側壁まで癒着していた。腫瘍の浸潤があったと考え, 癒着は剥がさずに第 5 肋骨から第 1 肋骨まで後側方を順次切離。後方は椎体の関節面ではずした。鎖骨下動静脈部では瘢痕様組織を認めたが, 迅速組織診にて陰性であった。右上葉切除, 中葉部分切除, 胸壁合併切除, 縦隔リンパ節, 鎖骨上リンパ節廓清術施行した。手術時間 360 分, 出血量 1300ml であった。【術後経過】術後経過順調で 24 病日に退院し, 現在も再発徴候は認めていない。